

1. 評価結果概要表

作成日平成21年4月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2894900089
法人名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団
事業所名	グループホーム たけだ遊友館
所在地	〒669-5252 兵庫県朝来市和田山町竹田2063-3 (電話) 079-674-0085

評価機関名	NPO法人ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成21年 3月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15.1

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋 建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,800 円	その他の経費(月額)	預かり金管理費1,000 円	
敷 金	有(円) 無	光熱水費 24,600 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(平成21年2月1日現)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	朝来和田山医療センター
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームたけだ遊友館は、円山川を挟んで別名「虎臥城」と呼ばれた竹田城址を前にし、桜の名所立雲峽を背にした緑豊かな自然の中にある。駅周辺には城下町の風情漂う寺町通りと伝統的な家屋により竹田の歴史と落ち着いた雰囲気を感じられる。兵庫県社会福祉事業団によって運営され、法人の理念に基づいて、きわめて質の高いサービスを提供している。昨年の四月にオープンしたばかりで今回初めての第三者評価を受けるとともに、管理者・職員があらたな気持ちで前向きに取り組んでいく姿勢が強く感じられる。家族との絆、その人らしさ、家庭的な暮らし、地域との繋がり、安心・安全を五つの柱とした理念を大切に実践にいかしながら、さらなるサービスの質の向上に一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的について会議で説明し全職員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かしてサービスの質の向上に繋がるよう積極的に取り組んでいく姿勢を持っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催されており、地区長、民生委員、市職員、家族代表、所長はじめ職員と幅広く参加して行なっている。報告だけにとどまらず、感染症対策や行方不明時の対応など積極的な意見交換で双方向関係を築き上げながら、さらなるサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情受付機関を明示している。面会時に意見や苦情を言いやすいような雰囲気作り心がけている。家族等の意見や不満に対して職員で話し合い、日々のケアに活かすよう積極的に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事等には積極的に参加している。事業所主催のもちつき大会や保育園、舞踊・尺八等各種ボランティアの方々との交流を通して地域と孤立しないよう地域との交流に積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念をわかりやすい言葉で表現し、地域密着・地域生活継続を意識し事業所と地域の関係強化を謳った理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着サービスを全職員が意識しており、又、職員採用時に理念を説明し理解してもらっている。毎月1回開催されるユニット会議において意見交換や情報提供を実施している。さらに「あったかサポート実践運動」の中で理念実践を全員で確認し、毎月自己点検を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に積極的に参加している。事業所主催のもちつき大会や保育園、舞踊・尺八等、各種ボランティアの方々との交流を通して、地域と孤立しないよう地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について、会議で説明し全職員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かしてサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいく姿勢がある。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的開催されている。地区長、民生委員、市職員、家族代表、所長・職員と幅広い立場の人が参加している。報告や情報交換のあと意見を出してもらい次の会議で結果報告している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に行事に参加していただいたり、毎月利用状況を報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、健康状態や日々の暮らし方、金銭管理を定期的に報告している。面会時にも随時報告している。職員の異動については報告されていない。	○	職員の異動、離職について馴染みの関係を意識しながら不安を与えないよう、今後家族連絡会や運営推進会議等で報告されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付機関を明示している。また、面会時に意見や苦情を言いやすいような雰囲気作り心がけている。家族等の意見や不満にたいして職員で話し合い日々のケアに活かすよう積極的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ開設したばかりで職員の異動は無い。異動や離職がやむをえない場合でも馴染みの職員が対応することが重要と考え利用者へのダメージを防ぐ対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所開設前に1ヶ月新任研修を実施した後十分な研修の確保には至っていない。	○	年間計画の中に研修を位置付け、習熟度に応じた研修を受講できるような機会を工夫されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の研修会に参加したり、情報交換を行ないながら交流を図り事業所のサービスの質を向上させていく取り組みを行なっている、		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とともに見学を兼ねて一緒に来ていただくことを勧めているが、家族だけのときが多くて、地域密着型サービスの特徴を活かして、利用前に徐々にサービスの場に馴染み、安心して納得しながらサービスを利用できるように、通いやショートステイを利用して段階的な支援の工夫に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は一緒に生活し互いに支えあう仲間という視点に立ち、人生の先輩として教えてもらうことも多く、家事を一緒にしたりお互いが協働しながら場面作りをすることで共に支えあう関係作りに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式による暮らしの情報シートに家族に記入してもらい、一人ひとりの思いや暮らし方を把握するよう努めている。日常の会話や表情から汲み取るようにしている。把握が困難な方に対しても家族や関係者から情報を得て利用者本位に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常日頃から本人の想いをくみ上げて関係職員でカンファランスを実施し介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しは定期的に行なっているが、入院や介護度の変化はあったものの状態に大きな変化が見られなかったため介護計画を見直した事例は無い。	○	定期的に見直すだけでなく現状に即して臨機応変に対応することが望まれる。状態に変化が無い場合にも変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しに期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の朝来市健康福祉施設「立雲の郷」と連携して柔軟な対応をしている。本人や家族の状況に応じて通院や送迎等柔軟に対応して要望に沿えるように対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医や本人、家族の希望する医療機関での受診を支援している。受診の際、基本的には家族が付き添うが同行できない場合は職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を定め重度化した場合における対応についての同意書をいただいている。かかりつけ医との連携と職員全員での方針の共有までは至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について本人、家族等、かかりつけ医、ケア関係者とよく話し合い全員で方針の統一を図りながら共有していくことが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことがないよう日々の言葉かけや対応に配慮している。記録等個人情報の取扱いに関しても職員全員で意識付けを行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めておらず利用者のペースに沿って柔軟に対応している。急な要望に対して無理な場合は日程を調整し、説明した上了解を求めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や体調に合わせた食事を提供している。また、食事の準備や後片付けはともに行なっており一人ひとりが持つ力を発揮していただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めず出来る限り希望に合わせた入浴が出来るよう心がけ、拒否される方には無理強いせず声かけや対応の工夫で個別に支援している。職員のローテーションを工夫して夜間希望者にも入浴支援が行なえるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花、植木の世話、畑仕事、手工芸、など一人ひとりが持っている生活能力を引き出し、張り合いのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として近くの馴染みの店に買物に出向いたり散歩をしたり、一人一人の気分や要望に応じて外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけないで夜間のみ施錠している。外出しそうな気配を感じたら同行したりさりげなく声かけをしたり安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル設置して、近隣の施設と「福祉村災害時相互応援に関する申し合わせ」を定めているが、地域への協力に対して働きかけは行なわれていない。	○	運営推進会議の場を利用して消防署、警察署、地域の協力を要請するなど、夜間想定避難訓練の実施等、今後の取り組みが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に毎日記載し、情報を職員が共有できるようにしている。食べもの、飲み物の嗜好をチェックし献立に反映させている。必要に応じて刻み食やとろみ食で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、共用部分とも清潔で清掃もよく行き届いている。カーテンやよしずを利用して、日差しを調整したり季節に応じて置物や花を飾るなど、季節感や生活感に対する工夫や配慮が見受けられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らせるように馴染みの深い家具や装飾品を配置して居心地の良い居室作りがなされていて、その人らしさを大切にする配慮がなされている。		